

失礼します。今日は前期最後の日、節目ですので、ひとこと話をさせていただきます。一般的に言って「校長の話」は、全校の誰しにも当てはまるような、差し障りのないものが多くなります。だからあまり面白くない。ごめんなさいね。それに対し、担任の先生が出してくださる学級通信には、みんなの個人名がたくさん出てきて、誰がどんなことをしたとか言ったとか、すごく具体的で、読んでいても実に面白い。みんなもそうなんじゃないかな。あれ、間違いなく、担任の先生のみみんなへの愛情です。

たとえば1 B。9/18の通信には、長縄を回す煌我さんと広人さんの写真が大きく載せられ、その姿から何を思うかと問われています。その問いに対し、1 Bの生徒たちはしっかりと考えたのでしょう、次の日9/19の学級通信は、1 Bの仲間たちの「プラス発言をみんなで言い合いたい」「マイナスな空気にならないよう、ポジティブな言葉で」「私たちも一生懸命に」といった言葉であふれていました。1 Bオリジナルのドラマがここにあります。ひょっとしたら長縄で何回跳べたか以上に大事なものを、この時1 Bは獲得できたのかも知れません。

たとえば3 A。9/17の学級通信が印象的でした。長縄の回数が伸びず話し合い、でもすぐに結果はついてこず、動画で見てもその原因がつかめず…文面からは3 Aの焦りが読み取れます。そんな中、昊真さんは「大縄がスランプで心配だけど、声を出してコツコツやる」と、福丸さんは「もっと全員で声を出していきたい」とコメントします。リーダーたちは現状打破のための話し合いを重ねます。競技中に「ドンマイ」「頑張ろう」という声が増えてきて、仲間に「頑張っているよ」とグーサイン付きで励ますうたねさんの姿が見られ、結果、9/13の計測では137回で全校暫定1位のところまで来た、そんな3 Aのドラマが描かれていました。おおげさな表現を極力抑え、生徒たちの言動を淡々と描くその文体からは、逆に筆者である学級担任の感動・感激がひしと伝わってきました。学級のことを誰よりも愛す担任にしか書けない文章だと感心しながらも、国語科の私は若干のジェラシーを覚えたものです。

たまたま1 Bと3 Aの話をしましたが、すごいのは、どの学級にもこういったドラマがあったことはないでしょうか。全ての学級に、間違いなくドラマがありました。前期を振り返れば、うまくいかないことも多々あったはず。でも結局大事なのは、そこからどんなドラマを生み出し、どんな学級、どんな自分へと成長するかなのです。

さあ、前期終了です。各学級で前期の成果を存分に確認し、15日からの後期につなげてください。後期は卒業や学級解散式につながる時となります。どうかたくさんのドラマが生まれますように。皆さんの中学時代が心震わす感動に包まれますように。そう願っています。後期も頑張りましょう。以上で話を終わります。